

テーマ：家計調査（2008年8月）
発表日：2008年9月30日（火）
～大幅下振れ。7-9月期の個人消費がマイナスになる可能性も～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)		実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前年差
07	1-3月期	0.6	0.6	2.6	2.6	72.0	▲ 3.1
	4-6月期	0.5	0.4	2.9	2.9	72.6	▲ 1.7
	7-9月期	1.5	1.6	▲ 2.3	▲ 2.3	74.1	5.5
	10-12月期	0.8	0.7	▲ 2.1	▲ 2.1	74.0	2.5
08	1-3月期	0.6	0.7	▲ 1.7	▲ 1.7	74.2	3.0
	4-6月期	▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 3.2	▲ 3.2	74.7	2.5
07	7月	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 4.4	▲ 1.2	72.8	3.1
	8月	1.6	0.3	▲ 2.7	▲ 1.4	75.0	5.0
	9月	3.2	0.0	0.4	0.8	74.4	4.1
	10月	0.6	0.3	0.0	▲ 0.1	74.4	1.8
	11月	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 2.5	▲ 1.1	73.7	0.8
	12月	2.2	1.6	▲ 3.5	1.4	73.9	2.5
08	1月	3.6	2.5	▲ 2.8	▲ 2.6	77.6	5.1
	2月	0.0	▲ 2.9	▲ 1.1	3.0	72.8	1.8
	3月	▲ 1.6	▲ 2.2	▲ 0.9	0.1	72.3	0.7
	4月	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 5.5	▲ 6.0	76.4	4.4
	5月	▲ 3.2	▲ 0.9	0.2	6.1	72.6	▲ 1.0
	6月	▲ 1.8	1.5	▲ 4.3	▲ 2.8	75.2	2.4
	7月	▲ 0.5	0.9	▲ 3.9	▲ 0.7	75.7	2.6
	8月	▲ 4.0	▲ 3.4	2.2	4.9	71.0	▲ 4.4

(出所) 総務省「家計調査報告」

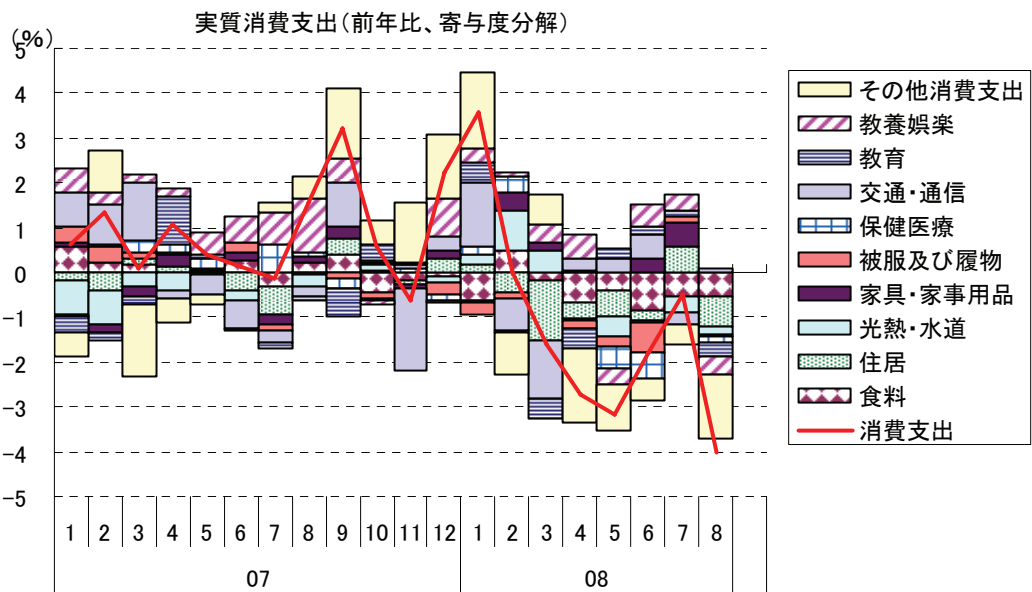
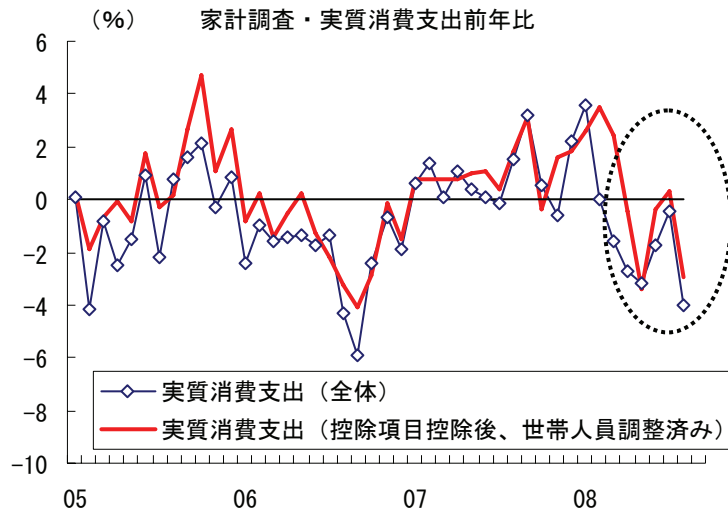
○ 大幅悪化

8月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比▲4.0%（7月同▲0.5%）とコンセンサス（▲1.4%、レンジ：▲2.6%～▲0.1%）を大幅に下回った。季節調整済み実質消費指数の前月比も▲3.4%と大幅減となった。また、GDP個人消費の需要側推計値作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比▲2.9%（7月同+0.3%）と大幅に悪化している。かなり弱い結果といって良い。家計調査は6、7月にいったんマイナス幅を縮小させていたが、8月はそのプラス分を完全に吐き出した格好になる。物価上昇に伴う実質所得の押し下げや消費者マインド急低下といった要因に加え、中旬以降の降雨量の増加や気温の低下などの天候不順も8月の消費を抑制させたと考えられる。

今月の家計調査の結果は、消費財出荷や小売業販売などの供給側・販売側統計と比べてかなり悪く、サンプル要因によって実態よりも下振れている可能性は存在する。だが、その供給・販売側統計にしても程度の差こそあれ弱含んでいることには変わりなく、足元の個人消費が低調に推移していることは間違いないだろう。筆者はこれまで、7-9月期のGDPベース個人消費は前期比横ばいもしくは微増程度になると予想していたのだが、8月の消費関連統計の結果を見る限りでは、4-6月期に続いて前期比マイナスになる可能性が否定できなくなってきた。

○ 先行きも不透明感は強い

先行きの消費動向についても不透明感は強い。原油価格の下落等を受けて消費者物価指数の上昇率が10-12月期に鈍化し、実質所得の下押し圧力が若干和らぐと予想されることはプラス材料ではあるが、雇用環境の悪化や賃金の抑制姿勢持続、消費者マインド悪化などの悪材料は引き続き存在する。このところの株安が消費者心理を追加的に押し下げる可能性があることも気にかかる。10-12月期の個人消費も停滞感が残る可能性が高いだろう。



(出所)総務省「家計調査」